

## 第 85 回 企業活性化研究分科会・議事録

＜第八五回 2016年1月23日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学（神田校舎）＞  
参加者：井端、大野、木村、小林、高市、浜田、依田、山本（8名）

### 1. テーマ：不適切な会計処理に関する分析—東邦亜鉛株式会社—

- ・報告者：小林宗一郎
- ・配付資料：6枚
- ・報告内容の要旨

本報告は、東邦亜鉛株式会社（以下、東邦亜鉛とする）の粉飾内容を明確にし、粉飾に対する改善案について検討した。東邦亜鉛は、平成27年に鉛を用いた遮音建材であるソフトカーム事業部で、売掛金及び棚卸資産の過大計上と会社資産の不正換金に関する粉飾の指摘をうけ、約1億6千万円の営業外費用を計上した。今回の粉飾は、企業全体での組織的な不正処理ではなく、担当事業部長からの予算達成へのプレッシャーや、主要顧客との特異な取引形態等を理由として、ソフトカーム事業部の営業担当者の個人が行ったものであるとしている。したがって、改善案としてはコンプライアンス意識の醸成、棚卸システムの再編成があげられる。また、東邦亜鉛における直近の売上高は約1,200億円であり、今回の粉飾は企業規模に比べたら小規模なものであるため、財務分析からは粉飾の兆候を発見することは困難であった。

### 2. テーマ：オカモト株式会社の分析

- ・報告者：大野喜一
- ・配付資料：23枚
- ・報告内容の要旨

本報告では、オカモト株式会社（以下、オカモトとする）の財務分析を行い、粉飾を発見するまでのプロセスと粉飾についての改善案を検討した。オカモトによる粉飾は、平成26年に従業員からの告白により発覚し、具体的には帳簿在庫に関しての不正処理である。今回の粉飾もまた、上記東邦亜鉛と同様に個人が行ったものであるため、改善案としては、上記同様に徹底したコンプライアンス意識の向上があげられる。さらに、売上高約770億円に対して粉飾金額は約1千万円であり、上記東邦亜鉛の件と同様に企業の規模に対しての粉飾金額が小さく、財務分析からは粉飾の兆候を発見することができなかった。

### 3. テーマ：財務分析における負債項目の再検討

今回は、上記2つのような財務分析からは粉飾の兆候を発見することが困難なケースがあるという状況を踏まえ、負債項目における無利子負債の位置付けについて検討した。レバレッジの観点を考慮したとき、金融費用の計算で分母は無利子負債を総負債から控除する手法においても理論が成立するのではとの提起である。理論の有意義性についての結論は出なかったが、今後の本分科会での研究課題とする。

### 4. 今後の予定について

- ・4月 分析企業-クボテック株式会社-依田先生  
分析企業-セーラー万年筆株式会社-木村先生

（文責：浜田勇毅）